

ニュース JAFIC EYE No.130

2019 年 4 月における北部太平洋のマイワシ漁獲状況

1.マイワシ漁獲状況概要

三陸主要各港における 4 月のマイワシ漁獲量は 3,259 トンで前年の 1.8 倍であった。石巻でのマイワシの 4 月の漁獲量は 3,259 トンで前年同期 (904 トン) の約 3.6 倍であった (表 1)。常磐・鹿島主要各港におけるマイワシ漁獲量は 44,737 トンで前年同期 (30,106 トン) の約 1.5 倍であった (表 2)。

表 1 三陸各港におけるマイワシの漁獲量

水揚げ港	2019年4月 (トン)	2018年4月 (トン)	前年比
大船渡	—	27	—
気仙沼	—	5	—
女川	—	919	—
石巻	3,259	904	3.61
合計	3,259	1,855	1.76

(出典：おさかなひろば)

表 2 常磐・鹿島各港におけるマイワシの漁獲量

水揚げ港	2019年4月 (トン)	2018年4月 (トン)	前年比
小名浜	436	—	—
大津 (茨城)	252	429	0.59
波崎	2,897	3613	0.80
銚子	41,152	26,064	1.58
合計	44,737	30,106	1.49

(出典：おさかなひろば)

2.マイワシの体長組成

金華山に近い網地島沖で今年 4 月上旬に定置網により水揚げされたマイワシの体長組成は 12～15cm (1 歳魚、2018 年

級群) が主体で、前年同期の 17～20cm (2 歳魚、2016 年級群) とは異なった (図 1)。常磐沖で今年 4 月下旬にまき網により水揚げされたマイワシの体長組成は 18～21cm (3 歳魚、2016 年級群) が主体、前年同期も 18～21cm (3 歳魚、2015 年級群) が主体であった (図 2)。また、今年は 12～17cm (1～2 歳魚) も見られた。

前年 4 月上旬は東北沖の定置網において 1 歳魚ではなく、2 歳魚が主体であったが、今年は 2017 年同様漁獲の主体は 1 歳魚であった。今年は 4 月下旬から常磐沖において 20cm 以上のマイワシが漁獲され始め、2018 年よりも 3 歳魚の北上はやや遅かった。

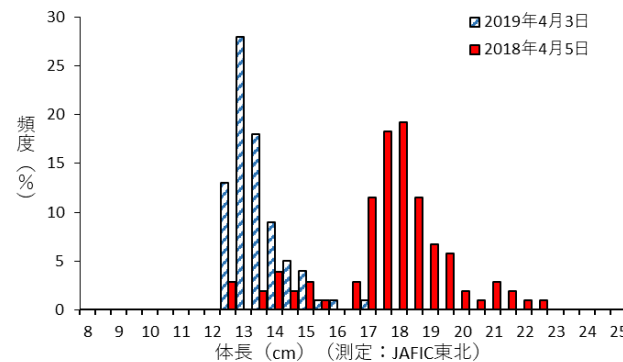


図 1 4 月上旬の網地島における定置網水揚げ物
体長組成の前年比較

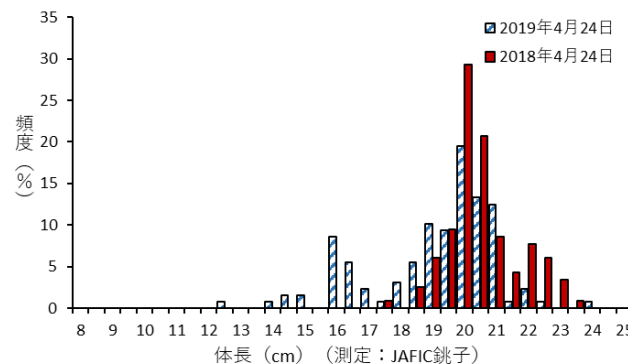
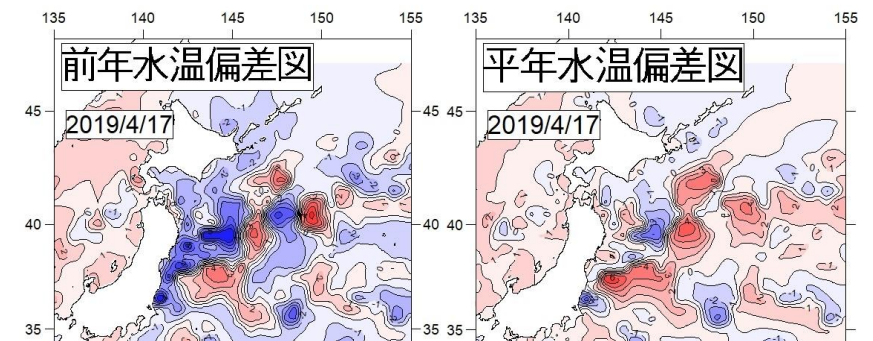


図 2 4 月下旬の常磐沖におけるまき網水揚げ物
体長組成の前年比較

3.海況の特徴



(青色部分は前年よりもマイナス、赤色部分はプラス)

図 3 4 月 17 日における東北沖の表面水温前年偏差図

常磐沿岸～三陸北部沿岸は前年よりも 3～4℃ 低く、その沖合には 2～4℃ 高い海域が見られた。平年と比較すると、常磐沿岸は 2～3℃ 低かった。前年よりも親潮が強かったためと考えられる。

4.まとめ

3 月同様、漁獲量は三陸海域、常磐・鹿島海域ともに前年を上回った。3 月から引き続き、大船渡、気仙沼、女川では水温の低下により、漁獲が見られなくなった。4 月下旬から常磐沖で 3 歳魚の北上傾向が確認できた。前年よりも常磐沖の水温が低かったため、前年よりもマイワシの北上が遅くなったと考えられる。

(漁海況部)